

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 碩済会
事業所名	グループホーム 敬史館
訪問調査日	平成20年12月15日
評価確定日	平成21年1月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 碩済会
事業所名	グループホーム 敬史館
所在地	鹿児島市本名町494番地 (電話) 099-294-1717
評価機関名	特定非営利活動法人シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	18人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.75人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	9名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田温泉病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の、自然に囲まれた静かな環境に建てられたホームである。近隣の福祉事業所と協力して、高齢者向けの地域サロンや福祉フェスタの開催をはじめ、利用者の地域行事への参加など、地域に密着した活動に積極的に取り組んでいる。職員は、外部評価委員会や研修委員会など、いずれかの委員会に属しており、毎月委員会毎に話し合いを持ち、スキルアップおよびケアの質向上に向けて熱心に研鑽している。協力病院や関連事業所も近く、医療連携体制が充実しているため、利用者およびご家族にとって大きな安心となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有については、看護師を中心に勉強会を実施し、ご家族と繰り返し話し合いの機会を持ち希望に沿えるように体制を整えている。日常的な外出支援については、利用者の希望に合わせて、散歩、買い物など屋外に出る機会をなるべく多く持てるように支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員が全項目を記入した上で外部評価委員会においてまとめを行い、ミーティングにて報告している。外部評価の指摘事項と併せて、評価を活かした改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	構成メンバーに地域住民が多く、地域に根ざした意見交換が活発に行われている。出された意見はホームの運営に反映して、次の会議で状況を報告している。出席者には、利用者と同じ食事が提供される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヶ月毎のカンファレンスや家族会および訪問時の声かけで、ご家族と直接話す機会を作り、意見を引き出すように努めている。出された意見は申し送りノートに記録し、情報の共有や改善に活かすように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域サロンや福祉フェスタ、文化祭(貼り絵、パッチワーク、ミニ人形出品)など、地域の催しに参加している。また、映画会やギター演奏のボランティアを受け入れるなど、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に職員の意見も取り入れて作られた理念であり、「ご利用者と、ご家族の絆を地域の中で大切に支えていきます」という、地域密着型サービスとしての考え方が明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼での唱和やミーティング、代表者会議で理念について話し合うことで、その共有に努めている。パンフレットや広報誌、重要事項説明書などにも掲載され、利用者やご家族とも共有できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域サロンや福祉フェスタ、文化祭(貼り絵、パッチワーク、ミニ人形出品)など、地域の催しに参加している。また、映画会やギター演奏のボランティアを受け入れるなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員が全項目を記入した上で外部評価委員会においてまとめを行い、ミーティングにて報告している。外部評価の指摘事項と併せて、評価を活かした改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーに地域住民が多く、地域に根ざした意見交換が活発に行われている。出された意見はホームの運営に反映して、次の会議で状況を報告している。出席者には、利用者と同じ食事が提供される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れをはじめ、生活保護の扱いやアキデントについて、随時相談できる関係を築き連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されるホームの新聞に、担当職員が一人ひとりの暮らしぶりを書き添えてご家族に報告している。また、3ヶ月毎のカンファレンスにはご家族の参加もあり、状況を報告している。来訪時には金銭管理状況を報告し、確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月毎のカンファレンスや家族会および訪問時の声かけで、ご家族と直接話す機会を作り、意見を引き出すように努めている。出された意見は申し送りノートに記録し、情報の共有や改善に活かすように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の介護技術向上のために法人内の異動を行っているが、異動する際は利用者の精神的負担が大きくなるように、新しい職員と接する機会を多く持ち、早い段階で信頼関係を築けるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が中心となり年間研修計画を立てており、職員のスキルアップに努めている。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉関係者と地域サロンや行事を通して交流を図っているが、グループホーム独自の交流は今のところ十分とは言いがたい。	○	計画されている他のグループホーム見学や勉強会について具体化し、相互訪問や交流の機会を通して情報を交換を行うことで、更なるサービスの質向上に努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人およびご家族に見学してもらい、納得した上で利用を開始するようにしている。体験利用の希望があれば、受け入れる準備が整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食後のテーブル拭きや後片付け、農業経験を活かしての家庭菜園作りなど、日常生活の様々な場面において、利用者を人生の先輩として敬いながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや筆談、表情から本人の思いを受け入れ、意向に沿えるように努めている。また、ご家族とも相談して、本人の思いに近づけるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議やカンファレンスを通して、本人およびご家族並びに職員が話し合う機会を持っている。入居時の短期計画と2週間後の長期計画作成という方式をとっている。疾病については、かかりつけ医の意見を聞き計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を実施して状態を把握している。定期的見直しとともに、変更が必要な場合は早急に必要な関係者と内容を検討し、新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の送迎やドライブなどの外出支援を行っている。また、医療連携体制を構築しており、協力病院や事業所との協力により、本人およびご家族の希望に応じた柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医の受診支援はご家族に依頼しているが、医療機関への情報提供を行い、適切な医療が受けられるように連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人およびご家族から、早い段階で終末期の希望を確認しており、その後も繰り返し話し合いを行い意向の把握に努めている。看護師を中心に、重度化や看取りについての勉強会を行い、職員全体に統一した意識付けを図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉の拘束、排泄時の声かけに注意し、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように心がけて、日々のケアを実施している。記録等の書類は事務所に保管して、適切な管理がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や好きなことを日常生活に取り入れて、業務の流れを押し付けることなく、利用者のペースに合わせて支援を行っている。入浴は希望すれば毎日可能であり、買い物や散歩も希望に沿うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて自助具や食事形態を工夫して、支障なく楽しんで食事ができるように支援している。3ヶ月毎に嗜好調査を実施しており、献立はテーブルに表示されている。盛り付けや後片付けは、利用者が分担している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を特に決めず、利用者の希望に合わせて毎日でも入浴できるように支援している。入浴した日を記録に残し、前回の入浴から間隔が空かないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園に取り組む方や新聞を読む方、歌が好きな方、散歩や買い物に出かけることが好きな方、食事の準備をする方など、これまでの暮らしを活かした楽しみごとや役割を持つことで、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ゴミ捨てなど、日常的になるべく多く外出の機会を持ち、屋外で過ごす時間が確保できるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態に応じて個人毎にセンサーを使用している例があるが、基本的にはセンサーに頼ることなく、職員間で連携を図り、外出される場合には付き添いながら安全を確保するように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いも含めて、2ヶ月に1回の防火訓練を行い火災に備えている。緊急時に備えて蘇生法の勉強会を行い、AEDの導入も予定している。緊急時には協力病院をはじめ近隣の看護学校、児童施設、公民館長などに協力を依頼している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1500mlを目標に毎日記録しており、必要な水分量が確保できるように支援している。管理栄養士による献立指導もあり、栄養バランスは適切に保たれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には大きな窓から光が差し込み、木目の床や家具類は家庭的な安らぎを感じさせる。テーブルには花を飾り、季節が感じられるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と話し合い、馴染みの家具を持ち込んでもらっており、過ごしやすいように家具を配置して居心地の良い居室空間となっている。		